

アルデー)に合わせ、カメラを持って泊外へ
になる。
8年、そのセレモニーは泊外人墓地ではなく、キャンプ・キ
の基地内での行事に変わっていた(注2)。私が前年に見たあ

一年に一度だけの 山登り
真をお渡ししながらの撮影は、本当に貴重で、稀な
る。あるご家族とお話している間に、別の写真を渡すべきご家族が
一年に一度の撮影と彦星の



にもう
とした
たので
内の子
外人墓
もちろ
は初め
よぎる
掘り続
ひとつ
ようとす
三三)、そ
ラーと異
アインタ
動してい
ヤッター
あと少し

つぶやいたこ
間をみつけて
のときに来られ
の方と偶然
出会った老婦
な方に写真
い。未だに
。墓地に
その人
銘銘のむ
るお墓
しばし
以外
長の
はか
か

墓前に向かい直立し、冥府を仰はしたまま、その姿勢をくずすこと
なく長い時間祈り続けていた。その凛とした姿はとても印象的であ
た。その関係がいかに濃密な時間だったのか

天である。生じたことでの
けないからだ。また、墓地を囲むように植えられた
うなの木の根が、自らの存在を主張するかのよう
石を持ち上げたり、なかにはヒビ割れをまねい
を掘り返しているうちに、これ